

# 大津町議会経済建設常任委員会と大津建設業組合との

## 意見交換会 会議録

1. 日 時 令和元年6月7日(金)午後1時30分
2. 場 所 オークスプラザ 1階 研修室1・2
3. 出席者 (大津町議会側) 7人  
委員会 永田委員長 津田副委員長 豊瀬委員 金田委員  
山本委員  
議会 桐原議長  
議会事務局 矢野局長  
(建設業組合側) 10人  
宇都宮組合長、長田副組合長、古荘、志賀、小西、長野、荒牧、  
宮川、岩下、大塚  
(町執行部) 5人  
村山土木部長、田上経済部長、坂田土木部次長兼下水道課長、  
村山都市計画課長、高橋建設課長
4. 議題
  - (1) 大津建設業組合からの報告
    - ①熊本地震後の現状と今後の展望について
      - ・ 働き方改革への対応や、労働者確保のため、週休2日制の導入、社会保険加入対策が求められていることが各事業者の課題となっている。
      - ・ 国の「防災・減災、国土強靱化のための3ヵ年緊急対策」により県内でも集中的な追加投資が行われている。
      - ・ これからの課題は建設産業の存亡に関わる「担い手確保・育成」「生産性の向上」「安定的かつ持続的な事業量の確保」及び「適正利潤の確保」を謳った改正品確法の更なる徹底であり、行政機関等にも要望していきたい。
    - ②新庁舎建設への意見
      - ・ 大津建設業組合としては、熊本地震後の後片付けや復旧・復興に尽力してきた。災害時の拠点となる新庁舎建設については、町長及び町議会宛に要望書を提出したが、技術者不足等の諸般の現状への課題もあるため、今後の組合員の技術向上並びに地元企業の育成も含めて、復興への一助として少しでもお手伝いできればと願っている。

## (2) 意見交換「現在の建設業業界の現状や大津町への要望及び提言について」

委員会：資機材の不足は、現在の事情を考えると仕方ないと思えるが、技術者等の技術者など人手不足への対応は時間がかかると思える。今後の見通しは如何か。外国人の雇用はあるのか。

組 合：資機材不足は東京の状況が一段落すれば、解決に向かうと思っている。技術者については、各企業新規に雇用したりしている。人手不足には外国人で対応している事例も県内にはあるようだが、町内は把握していない。

委員会：人材不足の件だが、若い人はどういった人がどういった動機で就職してきているのか。

また、東京などの状況が落ち着いたときは、熊本県内の仕事の量もはっきり分からないのではないだろうか。

組 合：若い人を雇用するのは業界の将来を見据えて行わなければならないが、将来どのくらいの仕事があるのかは分からない状況。

地元高校からの紹介でのインターンシップも活用している。

国の「防災・減災、国土強靱化のための3ヵ年緊急対策」を活用いただき、仕事の確保が出来ればと考えている。

組 合：組合からの要望としては、下半期に工事量が集中するため、発注時期を平準化し、年間を通した安定した工事量を確保していただきたい。また、人手不足を考慮した後期の余裕期間の導入も検討いただきたい。最後に、現地では不可能な積算がされている設計や直接仮設費が企業努力でされていることがあるので、現地に見合った積算をお願いしたい。

執行部：年度末に工事量が増える件については、補助金の交付決定が夏以降と遅れがちになることがあるが、国も今は指令前着工を認める方向になっている。また、用地交渉が関係する案件もある。出来るだけ工事量の平準化及び適正な工期の確保に努めたい。

委員会：議会としては公金を守る側の立場であるので、契約の変更が専決処分で報告されるのは嫌な部分である。

建設業の方々からは、現場の様々な諸条件等の情報も提供いただき、町とも十分なすり合わせをして施工することにより、議会の方へも変更とか遅れとかということについても、理解を得られる説明になるのではないだろうかと思う。

委員長：様々な意見や要望をいただき、今後のまちづくりに活かして取り組んでいきたい。

閉会 午後2時30分